

令和2年中の火災・救急・救助概要について(概数)

火災概要

火災種別でみると、建物火災が7件で車両火災が3件でした。
 建物火災のうち住宅(専用住宅、共同住宅及び併用住宅)は6件で、前年と同件数でした。
 損害額については33,178千円で、前年より16,072千円増加しています。
 火元建物の焼損程度は、全焼3件、部分焼2件、ぼや2件で前年に比べ全焼は3件増加、半焼は1件減少、部分焼は2件減少、ぼやは2件減少でした。
 また、火災による死者は1名、負傷者は5名発生しました。
 出火原因別にみると、「ストーブ」3件「たばこ」2件「電灯・電話等の配線」2件が主な原因となっています。

区分		年	令和2年	令和1年	増減
火災件数	合計		10	9	1
	建物火災		7(住宅6)	9(住宅6)	▲2
	林野火災				
	車両火災		3		3
	船舶火災				
	航空機火災				
	その他火災				
焼損棟数			12	9	3
り災世帯数			9	9	
面焼積損	建物床面積(㎡)		750	202	548
	建物表面積(㎡)		57	9	48
	林野(a)				
損害額(千円)別	合計		33,178	17,106	16,072
	建物		30,330	17,106	13,224
	車両		2,848		2,848
	航空機				
	その他				
死者数			1	1	
負傷者数			5	1	4
火災発生間隔日数(日)			36.6	40.6	▲4.0
焼火損元程度建物	全焼		3		3
	半焼			1	▲1
	部分焼		2	4	▲2
	ぼや		2	4	▲2
爆発					
火災原因	放火・放火の疑い			2	▲2
	ストーブ		3	1	2
	たばこ		2		2
	電灯電話等の配線		2		2
	上記以外		3	6	▲3
住宅用火災警報器設置件数()は住宅火災件数			4(6)	4(6)	

救急概要

令和2年の救急出動件数は3,727件でした。

前年に比べ340件、8.4%の減少となり、1日あたりの平均件数は10.18件となりました。

1、2月は増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症防止による自粛の動きが始まった3月から減少傾向となり、非常事態宣言が発出された4月は月あたりの1日平均が8.2件と減少のピークとなりました。以後月を追うごとに件数は増加していき、7月以降はほぼ前年と同様の推移となっています。

全体の搬送人員のうち、約67%が高齢者です。

搬送人員は3,509人で、小松市民の約30人に1人が搬送されたこととなります。搬送した傷病者のうち約42%は軽症でした。

区分		年	令和2年	令和元年	増減
救急出動件数	合計		3,727	4,067	▲ 340
	急病		2,317	2,593	▲ 276
	交通事故		277	328	▲ 51
	一般負傷		587	612	▲ 25
	転院搬送		423	417	6
	上記以外		123	117	6
救急搬送人員	合計		3,509	3,905	▲ 396
	急病		2,172	2,466	▲ 294
	交通事故		250	341	▲ 91
	一般負傷		574	594	▲ 20
	転院搬送		423	418	5
	上記以外		90	86	4
別傷病搬送者年齢	高齢者		2,373	2,470	▲ 97
	成人		895	1,115	▲ 220
	少年		127	150	▲ 23
	乳幼児		112	165	▲ 53
	新生児		2	5	▲ 3
傷病搬送程度	死亡		112	113	▲ 1
	重症		476	505	▲ 29
	中等症		1,451	1,510	▲ 59
	軽症		1,470	1,777	▲ 307
	その他				

救助概要

令和2年の救助出動件数は36件で、前年に比べ8件減少しています。

出動件数のうち、救助活動件数は26件、救助人員は27人となりました。

内訳として、交通事故による出動が21件で約6割と、最も多くを占めています。

区分		年	令和2年	令和元年	増減
出動件数			36	44	▲ 8
活動件数			26	24	2
救助人員			27	25	2